

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790200059		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	グループホーム「健康倶楽部家 鶴成館」		
所在地	福島県会津若松市門田町飯寺字村東305-6		
自己評価作成日	平成25年11月26日	評価結果市町村受理日	平成26年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成26年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成19年にオープンし6年が経ちました。開所の頃からいらっしゃるお客様が多く、高齢化による身体的変化はあるものの、ご本人・ご家族の意向を大切にしながら、その方が出来る事を継続出来るように、調理や盛り付け、買い物、立位訓練、自力摂取を促す食事の肩とひじの関節マージャーなどそれぞれに支援し、お一人おひとりがその方らしい生活が送れるよう日々取り組んでいます。又、お客様の希望を取り入れた季節の行事、外出で季節を感じたり、昔を思い出しく生活できるように計画支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1 事業所はISOの品質マネジメントシステムを取得しており、介護サービスの質の向上に繋がっている。
- 2 同敷地内に多くの介護関連施設があり合同避難訓練を実施している。緊急時の対応等についても協力、連携できる体制となっている。
- 3 開設当時から職員が多く、管理者をはじめ職員間のコミュニケーションが良好であり、利用者の表情も明るく楽しい雰囲気の仕事所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を作り、見えるところに掲示し、サービスを提供していく上での指標とし職員全員で共有し実践している。	全員で作成した、地域密着型サービスを踏まえた事業所独自の理念が目の付くところ(玄関、事務所)に掲示してある。全職員が理念を共有して日々のケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に行ったり、地区の盆踊りの参加や事業所で作った笹巻を配ったり、事業所の行事(夏祭りなど)などに参加して頂いたり交流に努めている。また、クリーンアップ作戦を企画し実施している。	事業所年間行事を作成し、地域の方に広報誌で参加を促し季節ごとの行事(餅つき、合同夏祭り等)と一緒に楽しんでいる。地区の行事は夏祭りへの参加、文化祭には利用者の作成した作品を出展し、地域との交流を積極的に実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や子供達との交流の場を通して認知症の理解をして頂けるよう機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用状況、行事、近況、外部評価の報告をし、表出した課題については意見や情報を出してもらいサービスの向上に努めている。	運営推進会議は定期的開催され、民生委員をはじめ各分野から選ばれた委員から活発な意見交換がなされている。会議内容も事業所の利用状況・地域との交流・防災・事業所の広報等幅広く協議されており、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員には運営推進会議に参加してもらい、管理者は包括ケア会議に出席し協力関係を築いている。市からは台風や大雨の後の被害確認を頂いたり、市から依頼の学生・高齢者の見学を受け入れ協力関係を築いている。	市町村担当者とは連絡がとれる体制となっており、事業所の状況報告や介護保険法改定に関する相談等について常に連携し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加したり、職員会議にて勉強会を行なうことで理解を深めている。ミーティングなどで話し合いながら拘束をしないケアに日常的に取り組んでいる。また玄関は夜間のみ施錠している。	研修を通して身体拘束のないケアを全職員が理解し、実践している。日中玄関の施錠は無く、職員の見守りで対応している。日々のケアの中でも言葉の拘束には十分注意してケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加したり、職員会議にて勉強会を行い理解を深めている。また職員同士も関わり方に問題がないか注意を払って声かけしあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて成年後見人制度についての勉強会を実施している。現在、制度を活用されている方もいらっしゃるの理解した上で支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項・料金について不安点や疑問点を踏まえて説明し、理解をいただいた上で契約していただいている。解約の際も同様に行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の方には毎月お客様会議を実施し行事等に意見を反映している。ご家族さまにはお客様アンケートを実施したり、面会時などに意見や要望などを気軽にいただけるよう努めている。また、事業所に意見箱の設置もしている。	意見箱を設置してアンケートを収集したり、年一回の家族アンケートを実施し家族の意向の把握に努めている。家族の面会時、何でも話してもらえるよう雰囲気作りに努めており、出された意見要望については会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は事業所会議や日常の申し送り時、又は面接を通して意見を聞き対応している。必要時は法人の上司に報告し対応している。	管理者及び介護支援専門員を中心に常に職員間の意見交換を実施している。年2回の自己目標評価の際も意見を聞く機会として活用しており、職員の意見が運営に反映させる仕組みとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理を年2回行い職員個々の努力や実績を確認している。希望休については随時職員と話し合いながら勤務表を作成している。また運営者は管理者と随時面接しながら職員の状況を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での階層別研修や、認知症グループホーム協議会の研修に参加できる機会を設け、知識向上やケアを見直す機会になっている。参加者は会議で報告し情報共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域包括支援センターで開催される包括ケア会議に出席したり、認知症グループホーム協議会の管理者会議に出席し研修の企画を行い、職員の交流や質の向上が図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	4月に小規模を利用されていた方をお迎えしたが、ご本人から要望があった際はご家族様に電話したり、職員が他お客様との会話の間に入ったりし、GHでの生活に慣れて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	GHに入所を決める際に抱えている不安を解消する為に何度も訪問し、話を聞く事で不安の解消に努め良い関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時にご本人の状況やご家族の抱える悩みについて伺い、今必要な支援をアセスメントやカンファレンスで検討しサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や片付け、洗濯物の片付け等できる事はお客様と一緒に、職員も支えてもらいながら生活している。本人の喜びや悲しみ等共有出来るよう十分なコミュニケーションに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、お便りなどでお客様の日々の様子や受診時の報告をし、情報の共有をしご家族様との良好な関係が維持できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方が面会に来てくださったり、お墓参りなどに連れて行って下さったり、面会の時間指定もなく好きな時間に来て頂いたり、今までのつながりを継続出来るよう支援している。	利用者のなじみのある理美容院の利用を継続している。家族の協力のもと、知り合いのお店を訪問したり、買い物に出かけたりなじみの関係が長く続けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の相性などを把握しトラブルにならないように常日頃から様子を伺い、必要時は職員が間に入ったり、孤立しないように職員が話しかけるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られたご家族様からお手紙を頂いたり、入院になった方には様子を伺いに面会に行ったり、ご家族から電話を頂いたり、こちらから電話したりし、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様と日々の関わりの中で思いや意向の把握に努めたり、月に1回お客様会議を実施し希望を聞き出す事に努めている。意思表示が困難な方には表情などを見て支援している。	利用者個々の思いや暮らし方の希望を把握し、全職員が利用者本位のケアとなるよう努めている。思いを表せない利用者に対しては家族からも情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様から入所に至るまでの生活環境、状況、生活歴などをきき、知人の方の面会時にもお話を聞いたり折にふれ、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動や動作、気持ちの変化などしっかりと観察したことを日々の記録に残し、申し送りをしっかり行い職員全員で共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を基に、カンファレンスで意見を出しあい、意向や状況に沿ったケアプランを作成している。	利用者や家族の思いとモニタリングの結果を基に、職員全員がグループホーム会議で検討しながら現状に即した計画を作成している。短期目標は3カ月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にプランその他のケアでの気づきや変化を記入し、申し送りで情報の共有をし、それに基づきカンファレンスで検討、見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様対応の病院受診に本人の状態やご家族様の希望に応じて同行したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に応じて千羽鶴を広島や長崎に送ったり、地域の行事に参加したり、慰問ボランティアを受け入れたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各個人がそれまで受診されていた病院が希望のかかりつけ医になっており、通院介助の方には通院後報告をきちんと行い、家族対応の方は受診の際主治医に伝えてほしいことはお伝えし必要に応じて同行している。	利用者の希望に沿ったかかりつけ医となり、通院記録として診療の状況・症状・家族への報告内容が「受診記録表」に記録されている。全職員がその内容を共有し適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定や日々の生活の中で体調の変化に気を配り、変化が見られた際は看護師、管理者に報告し、受診が必要な際にはすぐに対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は面会に行き状態を確認し、病院の看護師・MSWと連絡を取り合いながら、早期に退院できるように連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきているお客様に対しては、ご本人の状態を随時把握し、事業所としてできること、できない事を踏まえ、ご家族と方向性を確認しながら、ご本人様やご家族様が安心した対応が出来るようにチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期介護の方針を文書化し、入居時には、家族に説明し同意を得ている。利用者の心身の状況変化がある度に、家族と事業所で出来ること等を話し合い、説明している。利用者の状況を把握しながら安心した対応ができるように、全職員で情報を共有し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習に参加したり、急変時の対応やAEDの勉強会を行っている。緊急時は小規模や隣の鶴成館ショートと連携を図るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や防災の勉強会、地域消防大会の参加などにより災害に対する意識付けを図っている。また災害時の地域の協力体制についても声掛けし協力を得ている。災害時の備蓄品の準備を行なっている。	東日本大震災以降、毎年法人会全体で消防署立ち会いのもと合同避難訓練を実施している。参加した推進委員からの意見を災害防災計画に反映し、協力体制を得ている。水・缶詰・カロリーメイト等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの性格を理解尊重し、日々の声かけや接し方、関わりの中で誇りやプライバシーを損ねることがないように配慮してケアにあたっている。居室やトイレの入室の際もノックや声かけをきちんと行っている。	職員は「こやまケア実践評価表」で、利用者への尊厳・プライバシーの確保を具体的に認識し、実践している。声をかける場合にも利用者一人ひとりにあわせた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中での思いや、月に1回のお客様会議で要望をきき実施できるように支援している。おやつの際に飲みたいものを聞いて好きなものを飲んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	読書や塗り絵、休息やお客様同士の交流など、お客様の時間を大切に一人ひとりのペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は必ず整容し、入浴や外出の際などお客様と一緒に服を選んだりしその方らしい身だしなみに心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	お客様と職員は食事に関連した一連の作業を共に行なっている。誕生日や行事に食べたい物をメニューに取り入れ、食事の際は各テーブルに職員が付き会話しながら楽しく食事が出来るように支援している。	職員は利用者といっしょにテーブルを囲みながら食事をしている。利用者との会話は丁寧に向き合い傾聴している。食後の片付け・食器洗いも、出来る人は自主的にされ、職員は笑顔で対応しながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態で提供し、量のチェックも行なっている。その時の状態で食事量が確保できたりできなかったりする方には、食べれるときに食べて頂き無理のないように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方には声かけ促し、必要な方には介助にて口腔ケアを行なっている。肺炎予防の為に清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用の方や立位が困難で2人介助の方も、日中は出来るだけトイレ誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援している。	立位が困難な利用者には職員二人の介助で対応し、日中は声掛けをし、さり気なく誘導しながら自立排泄に向けて支援している。排泄に失敗しても羞恥心に配慮しながら、自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として水分を多く取ってもらったり、便秘気味の方には起床時冷水や牛乳を飲んで頂いている。また腹部マッサージや軽い運動を行なったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	回数や時間など希望があった際は希望に添えるよう支援している。入浴を拒む方への言葉かけ、タイミングの工夫を行なっている。菖蒲湯や柚子湯など入浴が楽しめるよう支援している。	一人ひとりの希望に合わせた入浴が出来るように支援している。入浴に消極的な利用者については、声かけに工夫したり、入浴時間帯を変更したりしている。菖蒲湯、柚子湯でリラックス効果をかめ、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて昼夜共に休んで頂いている。夜間眠れないような時は、声かけにて安心して頂けるよう努め安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時はその都度注意点等が申し送られ情報を共有している。また、処方箋に目を通し目的・副作用を確認している。症状の変化があった際は看護師にすぐ報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の生活の中でお客様の出来ることを大切に、メニュー書き、食事の後片付け、ごみ捨て、プランターの水くれ、洗濯物たたみなど役割を持って頂いている。作業レクが好きな方には塗り絵やカレンダー作りなど行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物や天気の良い日は散歩に出かけたり、本人の希望を受け自宅への外出も支援していた。また季節ごとに外出を企画し皆で出かけられよう支援している。	事業所近くのスーパーへの買い物や、穏やかな日に散歩コースを歩く等、本人の希望に沿うよう支援している。また、年間行事予定を作成し、季節を感じられるような場所に外出できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理できる方には所持して頂き、欲しい物がある際は買い物に出かけたり、外出された際に好きな物を買ったりと楽しまれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった際は電話をかけられるよう支援し、ご家族等から電話があった際もお話が出来るように支援している。ご家族様からFAXが届く方は、届いた際は一緒に読んで差し上げたり、年賀状のやりとりが出来る方には継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は毎日の清掃で清潔に努め、玄関や洗面台にはお客様や職員が自宅から持ってきた季節の花を飾ったり、毎月その月にあったカレンダーをお客様と作り飾っている。	共用空間には清潔感があり、落ち着いた色調感の中に利用者の書いた習字・利用者と共に作成したカレンダーを飾ってある。台所からは調理(包丁の音や香り)の様子が分かり、生活感のある居心地の良さを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分が好きな時に居室で過ごしたり、テレビを見たい方はテレビの前で過ごしたり、会話を楽しみたい方は席の配慮をしたりし、それぞれが好きな場所を見つけて過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	ご本人が今まで使用されていた、イスや机、位牌などを持ち込んで頂いたり、家族の写真を飾ったりし安心して過ごせるよう支援している。ご本人様とご家族様で購入されてきた壁飾りなどを飾ったりし居心地良く過ごせるようにしている。	利用者の愛用されたイス、共に過ごされた家族写真、ご位牌、千羽鶴等を置き、居心地良く過ごせるよう取り組んでいる。整理タンスには、利用者が使いやすいように、一つ一つの引き出しに中身の品物名を職員が書き、不安を感じさせない工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表れをつけることで自分の居室が分かったり、歯みがき粉や洗顔フォームの使用間違いがないように明記し本人が分かるように工夫している。また、ゴミ箱の設置を工夫し安全に配慮している。		